

日本超音波医学会第 96 回学術集会を終えて

会長 菊池 昭彦

(埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター)

1. はじめに

2023 年 5 月 27 日 (土) から 29 日 (月) の 3 日間にわたり、さいたま市のソニックシティとパレスホテル大宮で日本超音波医学会第 96 回学術集会を開催させていただきました。会場は JR 大宮駅前にありアクセスにはとても恵まれていました。驚くべきことに第 96 回と長い歴史を持つ本学術集会が埼玉県で開催されるのは今回が初めてでした。また、産婦人科領域からの会長は 2000 年の第 73 回学術集会における故・岡井崇先生以来の 23 年ぶりとなりました。医師になって 3 年目になり超音波医学の道に入った時点から長きにわたり私の指導教官であった岡井先生を偲びつつ、準備を進めてまいりました。

学術集会のテーマは「語り尽くす！ AI 時代の超音波医学」としました。2020 年 1 月から始まった新型コロナウイルス感染症はまだ収束していませんでした。しかしながらこの 3 年間、多くの学会・研究会が Web またはハイブリッド開催となり、新たな超音波機器・製品・技術を直に見ながら face to face で熱く語り合うことができなかつたため、第 96 回学術集会でみんなが一堂に会し語り尽くすことが私の一番の願いでした。また、超音波医学にも AI 時代が到来しつつありますが、「AI でできること」「AI でできない新技術」「これからの超音波医学におけるヒトの役割」といった内容を、各領域内および領域横断的に深めたいと考えました。将来、第 96 回学術集会開催の頃はこのようなテーマが議論された時代だったことが思い出されるようになればうれしいと思いました。

ポスターは、私の勤務する病院があります小江戸・川越市を背景にしました (図 1)。新時代となっても先達からの歴史が継承されて今があること、また現在のわれわれは後輩たちのために最善を尽くさなければならぬことを感じ、日本超音波医学会学術集会においても伝統を大切にしたいとの思いを込めて作成しました。

開催形式は、ライブ配信なしの現地開催とオンデマンド配信としました。その結果、非会員ご招待者

や運営・協力スタッフを除いた、オンデマンドを含む全参加者は 6,677 名、現地参加者も 3,561 名と大変多くの方にお越しいただき、無事に終了することができました。ご参加・ご協力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。

2. 現地開催と会長講演・特別講演

コロナ下であったため、現地にお越しいただける参加者は少ないかもしれないと危惧しておりましたが、学術集会初日の朝から予想以上にものすごく多数の方々にお越しいただきました (図 2)。学術集会会長としてとてもうれしい気持ちになりましたが、長蛇の列になってしまい (図 3)、申し訳なかったと思っています。この場を借りてお詫び申し上げます。企業展示場も多くの人が足を運ばれ盛況でした



図 1



図 2



図 5



図 3

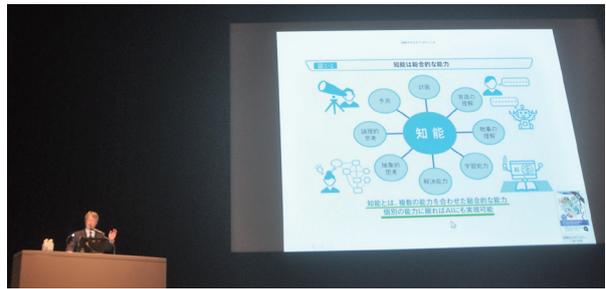


図 6



図 4

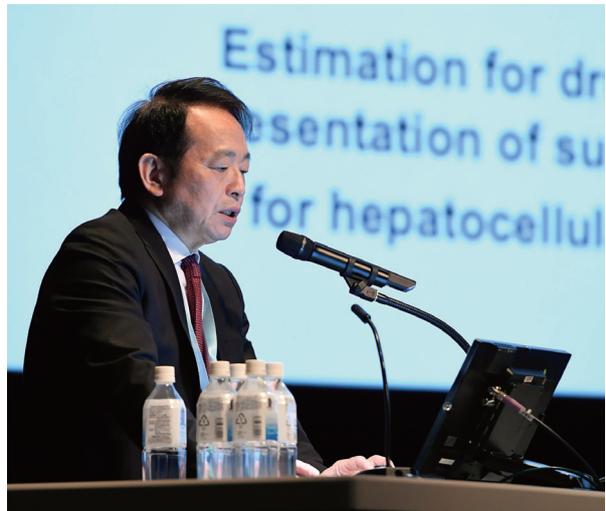


図 7

(図 4). また、小江戸川越の駄菓子コーナーを用意したところ人気が出て好評でした (図 5).

さて、大会長として学術集会準備を進める中、私が最も頭を悩めたのは会長講演準備です。例年、学術集会長自身の専門領域をテーマにすることが多いと思いますが、私が専門とする産婦人科領域を講演テーマに選べば、他領域のほとんどの参加者には関心が持たなくなってしまいます。そのため私は会長講演を、AI が専門ではなく苦手意識を持つ皆様も

含めて、テーマ「語り尽くす！ AI時代の超音波医学」の下で3日間にわたる学術集会に少しでも安心してご参加いただけるように初日に企画し、AIの専門家ではない私がまとめた「AIの基本・現状と超音波医学への展望」という演題にしました。この道のプロではないので、AI専門研究者の皆様にはご容赦いただきたい内容になったと想像しますが、上記思いをお汲み取りいただくことを願って講演いたしました (図 6).

2日目には近畿大学消化器内科の工藤正俊先生に特別講演1「肝腫瘍の超音波人工知能診断の社会実装に向けて：日本超音波医学会の取り組み」(図7)を、3日目には埼玉県秩父市ご出身の落語家・林家たい平師匠に特別講演2「笑顔のもとに笑顔が集まる ～修業を通して学んだこと～」(図8)をご講演いただきました。

3. ファイアサイドトーク

パレスホテル大宮で初日の夜に開催しました。コロナ下でありましたが約800名の皆様にお越しいた



図8



図9



図10



図11

だき、ほぼコロナ前のような盛況な会にすることができました(図9：日本超音波医学会本部事務局の皆様で、本学術集会でも大変お世話になりました)。埼玉県のお食事・お飲み物をたくさん用意し、十分にお楽しみいただけたものと自負しています。余興も好評でした(図10)。

4. 閉会式

私の閉会の挨拶(図11)に引き続き、次期第97

回学術集会長の岩永史郎先生（埼玉医科大学国際医療センター心臓内科）からご挨拶をいただきました（図12）。無事に岩永先生にバトンタッチすること



図12

ができ安堵した瞬間です。閉会式終了直後に、その場にいることができた医局スタッフを中心とするメンバーで記念写真を撮影しました（図13）。この日は月曜日だったため病院勤務医局員も多く、閉会式終了時点で会場にいたメンバーは限られていましたが、特に初日と2日目には多数の当科医局員と当院スタッフが学術集会運営の手伝いに来ていただき、各講演会場とスタッフ室で運営事務局の皆様とともに私を助けてくれました（図14）。この場を借りて感謝します。特に、大学産婦人科医局としては医局員数が40人近く在籍する大医局であったことに恵まれ、伝統ある大きな本学術集会を安心して運営することができたこと、幸せでした。



図13



図14